

群馬県立女子大学 FLRI Newsletter

Foreign Language Research Institute

外国語教育研究所だより

Vol.37 2020.10.26

2020年 明石塾活動報告（8月～9月） 第19期生の活動がいよいよ始まりました！

県内 14 校から男子 5 名、女子 15 名、合計 20 名を選考し、約半年かけて研究員による英語研修やディスカッション、本学教授陣による講義、初代塾長の明石康名誉塾長のオンライン講義などを受けながら、国際的な視野と高い志、国際舞台で堂々と発信し行動できる力を備えた人材を育成します。

2020年 明石塾 年内研修日程

回数	日にち	曜日	午前研修 10:00～12:30	午後研修 13:30～16:00
1	8月29日	土	入塾式・塾長との懇談会	オリエンテーション・18期生成果発表会
2	9月5日	土	英語研修① (研究員) David / Dermot Class building	グループエンカウンター 町田副所長
3	9月12日	土	英語研修② (研究員) David Speech Acts	英語研修③ (研究員) Milena Non-Verbal Communication
4	9月26日	土	明石康初代塾長講義 (オンライン)	英語研修④ (研究員) Mark Appearance and Stereotypes
5	10月17日	土	英語研修⑤ (研究員) Timothy Population Growth	講義① 宮内 洋 教授 (文学部 国文学科)
6	11月7日	土	英語研修⑥ (研究員) Mark Environmental Issues	講義② 笠井 俊和 准教授 (文学部 英米文化学科)
7	11月14日	土	英語研修⑦ (研究員) Timothy / Harry / Dermot Globalization and How It Affects Japan	講義③ Neal Snape 教授 小笠原奈保美 教授 (国際コミュニケーション学部)
8	11月21日	土	英語研修⑧ (研究員) Dermot Problems Facing the World in the 21st Century	講義④ 原谷 直樹 准教授 (国際コミュニケーション学部)
9	12月12日	土	講義⑤ 松浦 利隆 教授 (群馬学センター)	講義⑥ 山崎 隆広 准教授 (文学部 総合教養学科)
10	12月19日	土	英語研修⑨ (研究員) Dermot U.N.Mock Debate + Role Assignments for Final Presentation	講義のまとめ

今年度は、高校の休校期間が長く、塾生募集の時期も例年より遅くなりました。また、海外研修やフィールドワーク等の事業も取りやめにせざるをえませんでした。その分、英語研修を充実させ、様々なテーマについて議論し、内容を掘り下げることで、広い視野と高度な英語力を身につけるような研修を組んでいます。

本学教授陣による講義はこれまでとおり実施し、知的好奇心をかき立てる内容になっています。



入塾式の様子



塾生代表根岸果林さん決意表明

入塾式・塾長との懇談会 8月29日

小林良江塾長は入塾式式辞で、「明石塾での学びも重要なことですが、塾生同士の交流、絆も大切。将来の皆さんの宝物になると信じています。明石塾で自分なりの道を切り開く力を獲得することを強く願っています」と述べられました。

入塾生を代表して根岸果林さん（高崎女子高校2年）は、「ここで起こる波は、小さな波かもしれませんが、やがて大きな船を動かすかもしれない可能性を秘めています。ここには目標を持った仲間たちがいます。その目標は、人それぞれ違うでしょうが、何か変化を起こしたい、今ある世界を少しでもいい方向にもっていきたいという思いは共通しているはずです。そんな仲間たちと議論ができるこの場に立てていることを、私はとてもうれしく思っています」と決意表明を述べました。



小林塾長との懇談会①

その後の小林塾長との懇談会では、それぞれがユーモア溢れる自己紹介を行い、それに続いて小林塾長から以下のようなお話がありました。

「自己紹介を聞いていて思うことは、皆さん本当に今までの経験値がかなり多様でしたね。明石塾の一つの特徴だと思います。多様性が富んでいるという事は同時に自分がしたくてもできない経験をしている人達が沢山いるということにもつながることになります。是非その人に話しかけてみましょう。また、話しかけてもらうのもすごく大切です。それぞれが、話しますオーラ、話しかけてくださいオーラを出してください。そしてこの6ヶ月間、大いに楽しみながら学んでください。」

小林塾長の話を受けて、塾生との質疑応答がありました。その一部を紹介します。

塾生①：お話の中で、「今までにない明石塾」という言葉があったと思いますが、今までにない明石塾を私達自身で作っていくのに具体的に何を心がけたら良いですか。

小林塾長：今までにない明石塾を作るためには、自分達でこの明石塾で何を学びたいか、を考えることです。先生方、大学生チューターなどに相談しながら、「教えてもらうもの」ではなくて、「自分達で学ぶもの」を考えて欲しいと思います。

塾生②：将来は国と国、文化と文化をつなげて平和な世界を作り出す手伝いをしたいと考えています。私は多様性が受け入れられるようになったら、その時が世界平和だと思っています。塾長さんは何が世界平和の基準になると思いますか？

小林塾長：難しい質問ですね。まずは「平和」とは何か。争いごとがなければ食べて行けなくても「平和」と言えますか？瀬谷のみ子さんという、桐生出身、前橋女子高校から中央大学、イギリスの大学院を卒業され、現在は紛争予防センターの理事長さんをされていますが、彼女は、「平和とは選択肢があること」と言っています。例えば、「紛争が終わりました。兵士の人達が武装解除します、兵士だった人達が武器を返します」となった時、教育を受けていない、人を殺すことしか教わっていない武器を返した兵士に何が出来ると思いますか？そこで、その人達に職業訓練をする。職業訓練をすることによって、その人達に選択肢を与えていく。そういう選択肢がある世界が「平和」ではないか、と彼女は言っています。人によって「平和」って色々な考え方があるのです。



小林塾長との座談会②



小林塾長との座談会③

懇談会に参加した中田事務局長は、会の最後に「自己紹介を聞いていて、ものすごく皆さん自身が多様性たっぷりなので、とても羨ましく感じました。密なコミュニケーションが取れて、自分が持っていないものを得られる、そういった事を心がけてこの明石塾で勉強してもらえたらありがたいと思います」と塾生を激励されました。

第18期生(2019明石塾生)による成果発表会 8月29日

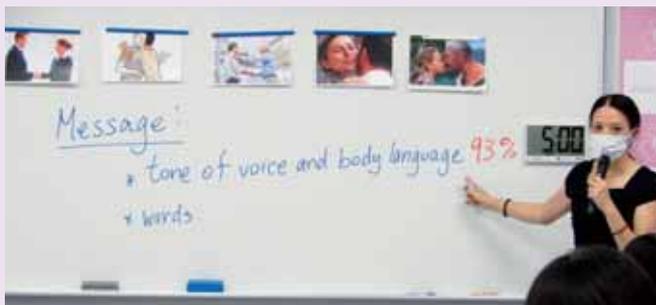


18期生による成果発表

第18期生は新型コロナウイルス感染拡大を受け、昨年度末に研修成果発表会を実施することができませんでした。そこで、第19期生の入塾式に合わせて、発表会を行うことになりました。これまでの研修成果を活かすべく、発表は全て英語で行われました。

本学教授による講義、東京フィールドワーク、海外研修など、第18期生達が経験したことを、パワーポイントを駆使して堂々と発表する姿に、第19期生は1年後の自分たちの姿を想像しながら、熱心に聞いていました。卒塾生の発表を現塾生達が聞くのは初めての試みでした。卒塾生や入塾生の保護者にも公開して行われました。

研究員による英語研修



カンナ研究員による講義・演習

明石塾の中核の1つである「英語研修」も始まりました。様々なテーマに基づき、単なる英語力の向上だけでなく、異文化を理解するための背景知識、文化的な内容も含まれています。カンナ研究員による英語研修では Non-Verbal Communication をテーマに行われ、顔の表情、手振り身振り、など様々な形式で意思疎通を図る面白さや難しさを学びました。カンナ研究員は、国や地域により仕草やジェスチャーが異なること、その違いを否定せず、受け入れて異文化を楽しむことが大切、と強調していました。

明石康 名誉塾長によるオンライン講義 9月26日

塾生達が楽しみにしている講義の1つである明石名誉塾長のオンライン講義が9月26日に行われました。明石先生の自己紹介から始まり、好奇心旺盛の子ども時代から、国連での奮闘についてお話頂きました。

その後は、塾生達からの質問に対し、時間をかけて丁寧に回答頂きました。質疑応答の一部をご紹介します。

塾生①: 明石先生は国連で40年以上働かれて、そこで沢山のバックグラウンドをもった人と一緒に仕事をしていく上で大変だったことと、それと同時にやりがいを感じたこと、学んだこと等を教えていただけたら嬉しいです。

明石先生: 色々なバックグラウンドの違う人と一緒に仕事をするというのは確かにややこしい所もあります。ものの考え方も、受けた教育も違います。従ってなかなかまとまらず、ばらばらに終わってしまうこともあるのですが、できるだけ、相手の言うことを注意深く聞くということでお互いに理解しあうという習慣を身につけると、逆に皆の力が結集し、大きな力となります。私は国連に入ってから、事務総長の報告書を皆で作る作業に参加しました。大変立派な仕事が出来て世界中から注目されるような仕事が完成しました。国際公務員として非常にやりがいのある仕事でした。

塾生②: 何か問題が起きてしまった時に常任理事国の一つが拒否権を使ってしまうと、すぐに対処できなくなってしまわないかと思うのですが、先生のお考えをお聞かせください。

明石先生: 拒否権、はっきり言うと、拒否権というのは国連の「必要悪」だと私は考えています。特別大きな5つの国、特にアメリカとロシアと中国、これらの国々が国連を出てしまうと、国連は弱体化します。だから拒否権を彼らに与えるのはこれらの国々を国連に引き留めておくための「必要悪」だと考えます。第一次世界大戦後、国連の前身である国際連盟というのがつくられました。アメリカのウィルソン大統領はアメリカを国際連盟に加盟させたかったのですが、上院が反対して結局加盟できませんでした。そういう事が再びないように拒否権というのは設けざるをえなかった。つまり「必要悪」なのです。こういう大国無しの国連の方が良いか、

それとも、時に拒否権を使いながら、これらの国々が国連の中にいて意見を述べてくれる方が良いかを考える時、やっぱり私はいてくれた方が良いという結論になりました。

塾生からの質疑応答を終え、最後に以下のようなメッセージで講義を締めくくりました。

「外務省とか JICA で働いている卒業生もいると聞いて私は大変嬉しく思っておりますが、そうでなくとも沢山の道の中で様々な可能性を考えてほしいと思います。コロナが早く終息して、群馬の地を訪れ皆さんと親しく話ができるのを心待ちにしています。」



明石康名誉塾長のオンライン講義



明石康名誉塾長のオンライン講義



講義を終えて明石名誉塾長と記念写真撮影

高等学校連携英語授業 4技能調和の取れた英語力育成を目指します

スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの調和のとれた英語力の育成を目指し、高等学校連携英語授業を実施しています。今年度は伊勢崎高校、沼田女子高校、高崎経済大学附属高校、四ツ葉学園中等教育学校、高崎女子高校で実施予定です。

9月は伊勢崎高校や沼田女子高校、高崎経済大学附属高校の生徒が来学し、研究員を講師として講義・演習を行いました。初回のテーマは「Requestのポライトネス」という英語学でいう「語用論」という分野の内容を、実際の場面に即して分かりやすく落とし込んで、言語活動を行いました。「お願いの仕方」にも立場や状況によって色々な表現があることを学び、実践形式での活動を通して楽しく学習しました。



伊勢崎高校



高崎経済大学附属高校



沼田女子高校の生徒からの
英語による手紙



沼田女子高校

研修を受けた沼田女子高校の生徒から、英語によるお礼状が届きました。研究員への感謝の気持ちと、英語学習への意欲が語られていました。研究員たちは、これを励みに、より充実した授業を目指します。

【手紙内容の一例】（一部抜粋・修正）

At first, I was very nervous and full of anxiety, but thanks to the teachers, I was able to relax and have a very good time. I was not very good at English, but after taking this lesson, I have a little confidence in English and want to talk in English more. I am looking forward to seeing you.

企業英語研修 企業の課題の応じた研修を実施しています

県内企業「サンデンホールディングス」の新入社員研修に研究員3名が出向き、基礎的な英語表現を身につけるための英語研修を実施しました。簡単な自己紹介から入り、サンデンホールディングスに実際にある役職名の英単語を学習、立場や役職の違う人への英語による依頼表現の仕方など、様々な活動を行いました。

本学卒業生3名も新入社員として研修を受けながら、アシスタントとして活躍してくれました。新入社員の皆さんは、英語を実際に使うことで語学学習の楽しさを実感したようでした。社会貢献の一環として今後も、地元企業との連携を深め、ニーズに合ったサポートしていきたいと思ひます。



全体演習の様子



グループ演習の様子